解説動画はこちらから↓

ブロック塀の診断カルテ

A．基本性能の診断〔基本性能値〕

診断項目		基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	10	①（　　）
	10以上、20年未満	8	
	20年以上	5	
高さの増積み	な し	10	②（　　）
	あ り	0	
使用状況	塀単独	10	③（　　）
	土留め・外壁等を兼ねる	0	
塀の位置	塀の下に擁壁なし	10	④（　　）
	塀の下に擁壁あり	5	
塀の高さ	1．2m以下	15	⑤（　　）
	1．2mを越え、2．2m以下	10	
	2．2mを越える	0	
塀の厚さ	15cm以上	10	⑥（　　）
	12cm	8	
	10cm	5	
透かしブロック	な し	10	⑦（　　）
	あ り	5	
鉄筋	あ り	10	⑧（　　）
	な し	0	
	確認不能	0	
控え壁・控え柱	あ り	10	⑨（　　）
	な し	5	
かさ木	あ り	10	⑩（　　）
	な し	5	

基本性能値（①～⑩までの評価点の合計）〔A　　〕

B．壁体の外観診断〔外観係数〕

診断項目		基準係数	評価係数
全体の傾き	な し	1.0	⑪（　　）
	あ り	0.7	
ひび割れ	な し	1.0	⑫（　　）
	あ り	0.7	
損傷	な し	1.0	⑬（　　）
	あ り	0.7	
著しい汚れ	な し	1.0	⑭（　　）
	あ り	0.7	

外観係数（⑪～⑭の最小値）〔B　　〕

C．壁体の耐力診断〔耐力係数〕

診断項目		基準係数	耐力係数
ぐらつき*1	動かない	1.0	C〔　　〕
	わずかに動く	0.8	
	大きく動く	0.5	

＊1　診断する場合は、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。

D．保全状況の診断〔保全係数〕

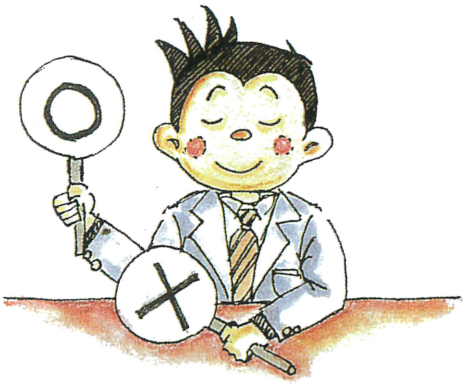
診断項目		基準係数	保全係数
補強・転倒防止対策等の有無	あ り	1.5	D〔　　〕
	な し	1.0	

診断結果の判定

1．総合評点（Q）を求めましょう。

基本性能値		外観係数		耐力係数		保全係数		総合評点（Q）
A	×	B	×	C	×	D	＝	

2．総合評点（Q）から、診断結果を判定しましょう。



危険度の判定と今後の対応

チェック	総合評点	判定	今後の対応
□	Q≧70	危険度が少ない	3～5年後にまた診断して下さい。
□	55≦Q＜70	要観察	1年後にまた診断して下さい。
□	40≦Q＜55	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策等を講じて下さい。
□	Q＜40	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去して下さい。

※　診断結果は、あくまでも目安です。専門家による精密診断を受けると、より正確に判定できます。

一般社団法人　全国建築コンクリートブロック工業会